

講演会のご案内

「チェルノブイリ並み初期被ばくにより多発した福島甲状腺がん

―被ばく由来のがん発生を否定する UNSCEAR 報告は崩れた―

講師 加藤聡子

2022年12月3日 午後2時～4時 Zoomによる講演会、申し込み 下記 無料

主催 福島原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会

共催 富山大学科学コミュニケーション研究室 / 低線量被ばく問題研究会

司会 山田耕作（京大名誉教授、明らかにする会代表） オンラインホスト 林 衛（富山大准教授）

講演 加藤聡子（短大元教授、明らかにする会） 60分

コメント 本行忠志（阪大名誉教授、明らかにする会） 15分

質疑・討論 45分

2011年の福島原発事故による被ばくは本当にチェルノブイリに較べ無視できるくらい小さかったのか。この「言説」の真相を追究してきた加藤聡子さんによる決定的な報告です。加藤・山田は今年2編の論文を発表*すると共に「原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)」との論争**を通じて、福島の甲状腺がんの多発がチェルノブイリ並みの初期甲状腺被ばくによることを明らかにしました。

意図的な隠蔽もあり、信頼すべき被曝データがほとんど存在しない福島において、被ばくの真実の追究は極めて困難です。不確実で曖昧な暴露量と現実に発生した病気があるとき、現実に発生した小児甲状腺がんから被ばく量を推定するという方法を取り、甲状腺がん発生率をチェルノブイリと比較することによって、UNSCEAR2020/2021 推定の福島の甲状腺被ばく線量が約70分の1に過小評価されていることを明らかにしました。

これにより、“UNSCEARで推定された甲状腺吸収線量において、甲状腺がんの大幅な増加は予測されない、従って放射線被ばくとは無関係”という UNSCEAR2020/2021 の主張のすべてが崩れます。

この結果は甲状腺がんに限らず、従来報告されている、周産期死亡率・低体重児の増加、心筋梗塞の増加などの健康被害の究明に資するものです。福島原発事故による健康被害の実態を明らかにし、予防・治療を支援することは、日本のみならず世界の未来の子どもたちへの責務であると考えます。

UNSCEAR を中心とする内外の諸組織の被ばくの過小評価の実態について本行忠志名誉教授よりコメントを戴きます。

ぜひ、講演を視聴し、議論に参加ください。

申し込み先 <https://forms.gle/f1Bjqv2jaVdThAUd6> 12月1日までにお願ひします。

連絡先 山田耕作 kosakuyamada@yahoo.co.jp

参考論文・リンク 明らかにする会 データベース <http://natureflow.web.fc2.com/HP/index.html>

*加藤・山田論文 2022 個人線量 I II **UNSCEAR2020/2021 検証 にあります。